

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	構成力の発達について : 場面連繋の可能性とその支障性
Author(s)	児童の言語生態研究会, ; 丹野, シゲ子; 上原, 輝男
Citation	児童の言語生態研究 , 4 : 8 - 17
Issue Date	1970-12-15
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045046
Right	
Relation	



構成力の発達について

―場面連繋の可能性とその支障性―

本会共同研究

「意図」

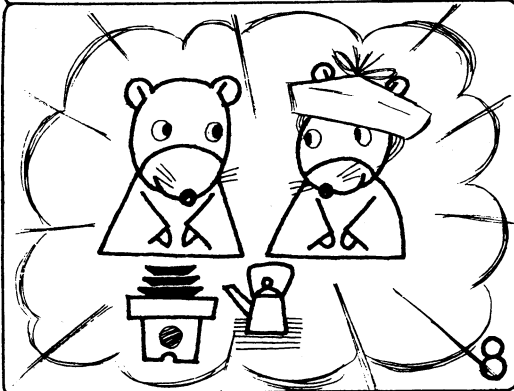
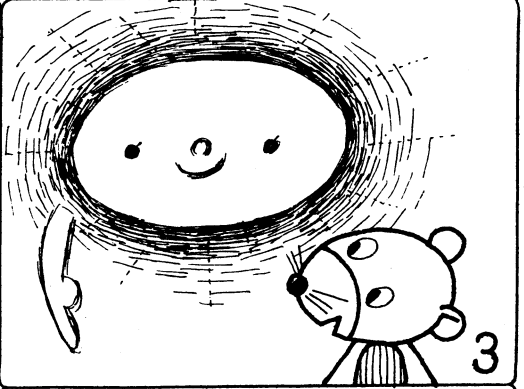
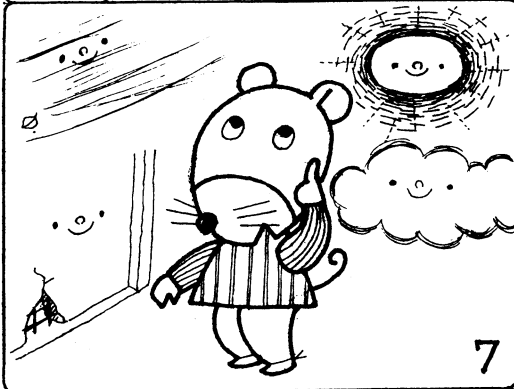
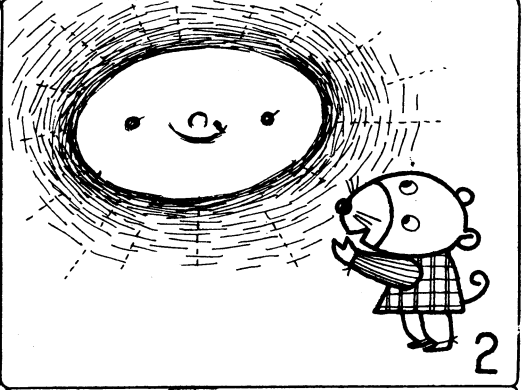
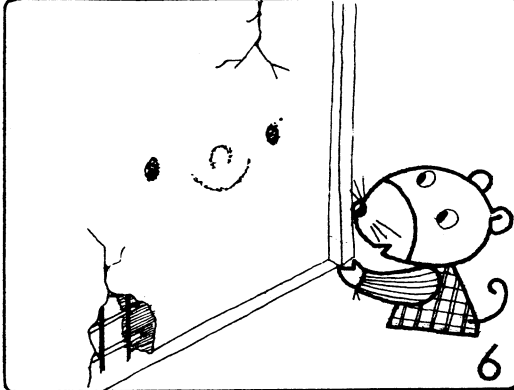
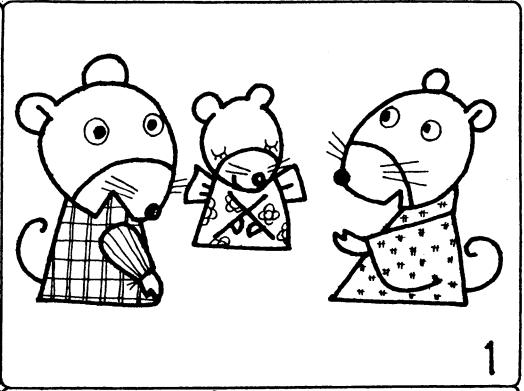
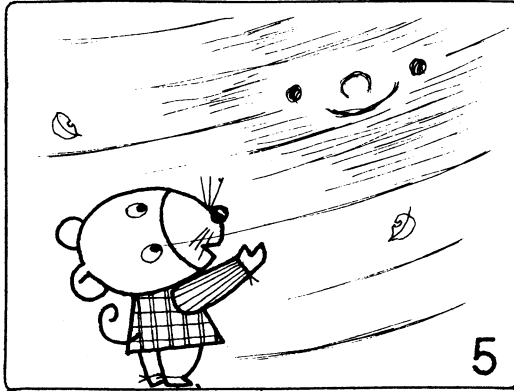
本特集のテーマである「書くということ」の一環の調査研究として行う。直接子どもたちが作文する以前に、イメージの連なりが自然の能力発達としてどこまで可能になっているかを問おうとするものである。それは、一たん書くことの内容として決定されたものの配列、アレンジを取扱うのではなく、まだ生成されつつあるイメージそれ自身の発動性を問うことにある。われわれの会が、書くことの指導よりも、書くということの指導であらねばならぬとする理由のためにも、この資料の発掘を期待したのである。

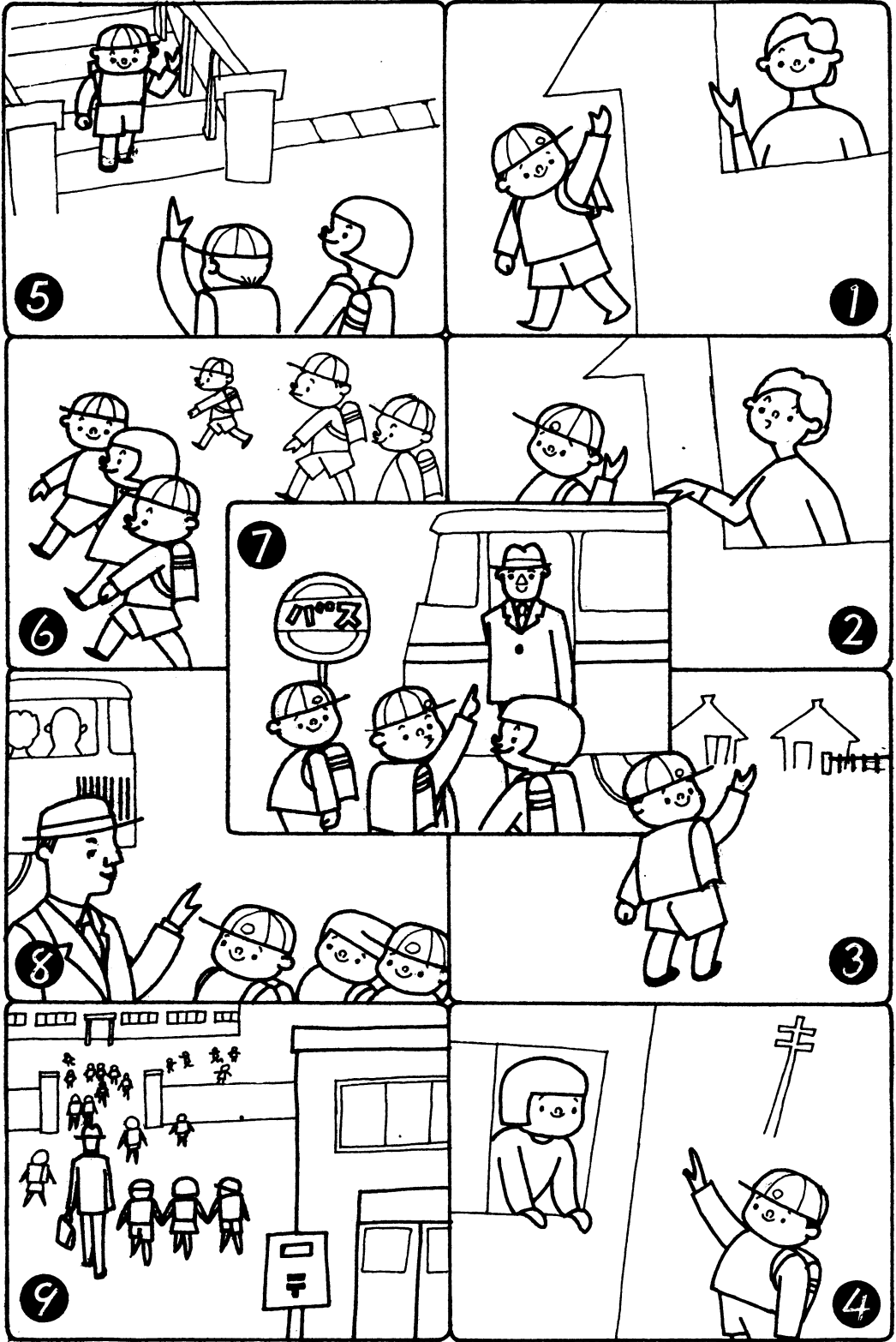
「方法」

別掲「ねずみの嫁入り」「登校」の話を、最小の場面々々に区切る。「ねずみの嫁入り」は8場面、「登校」は9場面とする。調査対象が幼稚園児に限って、別掲のごとく場面ごとに絵で示して園児の反応を試みた。小学生一年以上は、図示することなく短冊状のものにそれらの文章を書いたものを持たせる。小学生一年以上は、「ねずみの嫁入り」「登校」以外に、「きつちよむさん」「信長」「ペーパ・ルース」「一休さん」を加えた。

「提示の仕方」

○幼稚園の場合―(個人調査法)「これは紙芝居です。紙芝居には順番がありますね。この紙芝居は順番がでたらめになっています。これから一枚一枚という絵か、お話ししますからよく聞いて下さい」(一枚一枚子どもの前におきながら説明していく)「さあ、この紙芝居はバラバラになっていますから、一つのお話になるように順番に並べて下さい」○小学校の場合―(集団調査法)「渡した短冊の枚数を確認したのち」「その短冊に書いてあることをうまく読んでいくと、ちゃんとしたお話になりますから、机の上で、いろいろとおきかえてみて、できたら、先生を呼んで下さい。」





「ねずみの嫁入り」

1 ねずみのうちに むすめが いました。

2 ねずみの おとうさんは、お日さまのところへいって

「わたしの うちの むすめは、たいへんいい むすめです。せかいじゅうで、いちばんえらい あなたのおよめさんにしてください。」とたのみました。

3 お日さまは

「わたしより くもさんのほうが、えらいですよ。わたしは くもさんがくると、かくされてしまいます。」

4 くものところへいって、たのみました。すると、くもは

「わたしより、かぜさんのほうが、えらいですよ。わたしは、かぜさんにふきとばされてしまいます。」

5 かぜのところへいって、たのみました。

かぜは、

「かへさんのほうが、えらいですよ。わたしがいくらふいても、かへさんは、へいきです。」

6 かへのところへいって、たのみました。

かへは、

「ねずみさんのほうが、えらいですよ。ねずみさんにかじられては、かないません。」

7 ねずみのおとうさんは、

「そうだ。せかいじゅうで、いちばんえらいのは、やっぱりねずみだ。」

8 むすめは、きんじよの、ねずみの、およめさ

んになりました。

「登校」

1 ぼくは、げんかんを、でるとき、

「いって、きます」

といました。

2 おかあさんが、

「いっていらっしやい。しっかり、べんきょうするのですよ。」

といました。

3 ぼくは、

「はい。」

とへんじをしました。

4 となりの、もどきさんを、よびに、いきました。

5 もどきさんと、いっしょに、あるいているとおおはしのところへ、たかおくんが、手をふっていました。

6 ぼくたちは、たかおくんのところまでいそいでいきました。

7 がっこうへ、いくひとたちが、おおせいあるいていました。

8 なかが、わせんせいが、おりにきました。

「せんせい、おはようございます。」

と、いきました。せんせいは、

「やあ、おはよう。みんな、げんきですね。」

と、いきました。

9 ゆうびんきょくのまえを、とおって、いきました。

こうもんを、はいて、ぼくたちのきょうしつに、いきました。

「きつちよむさん」

1 むかし、あるところに、きつちよむさんというひとが、いました。

2 ある日、きつちよむさんは、うまをひいて、山へたきぎを、とりに、いきました。

3 その日は、いつもより、たつきが、とれたので、きつちよむさんは、大よろこびで、それを、みんな、うまのせなかに、つみあげました。

4 うまは、やせていたので、よろよろしながら、山をくだって、いきました。

5 とちゅうまで、きて、たおれそうになつたうまに、きがついた、きつちよむさんは、

「これは、わたしが、わるかった、こんなたくさんのたきぎでは、さぞおもしろう。わたしが、すこし、つだって、やろう。」

6 といって、うまのせなかのたきぎを、二わばかりおろして、やり、それを、うんどこしよと、じぶんで、せおいました。

7 そして、きつちよむさんは、すまして、そのまま、じぶもうまに、またがり、あせをかきながら、山をくだって、いきました。

「憎い」

1 のぶなには、きが、みじかくて、かんしやくもちのどのさまでした。

2 「うまを、ひけい。」

「はい。」

どうきちろうは、すくに、うまを、ひきだしました。のぶなは、うまにのるが、はやい、むらさう

つては、しらせました。

「どうきちろう、つづけ。」

「はい。」

うまなんかに、まけるものと、どうきちろうは、はをく、いしばって、うしろからは、しりました。

3 「きょうから、わたしの、ぞうりに、なれ。」

どうまの、せわをやめさせて、ぞうりという、うえの、やくめにつかせました。

4 あるゆきの、あきです。

5 のぶなは、げんかんに、でました。ぞうりが、そろって、いて、はくと、あたたかくなって、います。

6 「ぶれいものめ、ぞうりに、こしを、かけておつたな。」

「いいえ、ちがいます。さむいゆきのあきですから、あたたかくして、さしあげよう、おもいました。」

7 このように、どうきちろうは、なにをするにも、いっしょうけんめい、です。のぶなは、どうきちろうが、きに、いりました。

8 のぶなは、かんしんしました。ああ、いいけらいを、もつた、こころのなかで、よろこびました。

「林さん」

1 ちくさいさんは、まいばんのように、おてらへきて、おしょうさんと、よなかまで、こをうらまます。

2 こぞうの、いっきゅうさんたちは、ねむくて、たまりません。

3 いっきゅうさんたちは、ちくさいさんが、こなくなるような、くふうはないのかと、かんがえました。

- 4 「そうだ。いいことがある。」
- 5 いっきゅうさんは ながいかに なにかかいて もんにはりました。
- 6 ゆうがたに なりました。
- 7 ちくさいさんが いつものように けがわのそでなしを きて やつてきました。
- 8 いっきゅうさんたちは しょうじのかけから、そと そをみていました。
- 9 ちくさいさんは おやつと いうようなかおで、もんのほりがみを よみました。
- 10 「なに。けがわを きたものは この てらにはいってはいけない。なるほど。」
- 11 ちくさいさんは にやつと わらってはいってきます。
- 12 みんな がっかりしてしまいました。
- 13 どころが いっきゅうさんは ちくさいさんのまえへ、でると
- 14 「おてらは ほどけさまを おまつりしてあるところだ。ほどけさまは いきものを たいそうかわいがられるおかたです。けものかわを、きたひに はいられてはこまります。」
- 15 けれども ちくさいさんは 「ほんどうにある たいこは けものかわでできていますよ。はっぱは。」
- 16 「だから たいこは いつも ばらでたかれています。」
- 17 「さあ、みんな たいこのばちを もつておいで。」
- 18 ちくさいさんは とういしました。
- 19 「まいった。まいった。」
- 20 どあわてて にげだしました。

- 1 「ベープ・ルース」
- 2 ジョージルースは、プロやきゅうのせんしゅうになりました。ジョージは たいへんおおきなからだをしています。でもどこから あからちゃんあからちゃんしています。
- 3 オリオルズのせんしゅうたちは、
- 4 「こんど はいったジョージ・ルースというやつは、おおきいがベープみないなやつじゃないか。」
- 5 「ベープとよぼうじゃないか。」
- 6 とういしました。
- 7 ベープというのは あからちゃんということです。
- 8 ベープ・ルースになったジョージは、それからはげしいれんしゅうをしました。
- 9 アスレックスというらむとのしあいにてました。
- 10 ベープは びつちやです。
- 11 てきには そのころ ほーむらんおうといわれたベーカーがいました。
- 12 「ベープ・ルースなんて、きいたことのないびつちやだ。ベーカーに ほんぼん、うたれるさ。」
- 13 みんな おもしろがって みていました。
- 14 けれども、ベープのなげるたまは、つきからつきへど、ベーカーをからぶりさせます。
- 15 「わあ、ベープ・ルースって、なんてすごいびつちやだ。」
- 16 「つよいびつちやがあらわれたぞ。」
- 17 けんぶつのはひとたちは、わあわあとさわきました。とうとう、ほーむらんおう、ベーカーがベープにさんしんさせられてしまいました。
- 18 オリオルズらむのからに なりました。
- 19 「ベープ、よくやつてくれた。やつぱりきみは

わしのかんがえたどおり、りつばせんしゅうだ。」

ダンかんとくが、ベープのかたをだいてよろこびました。

『調査結果及びその分析』

A (幼稚園「ねずみの嫁入り」の部)

- 1 ほぼ完成と思われるもの — 三名
1. 2. 4. 5. 6. ③. 7. 8
1. 2. 4. 5. 6. 7. ③. 8
1. ③. 2. 4. 5. 6. 7. 8
- 3 のカードの位置が不適当であるが
- 2 と 3 のカードの絵が類似したものであったことによる。

B 四場面をつないだもの — 一名

5. 7. 1. 1. 2. 3. 4. 6. 8
- つなぎ得ないカードを前後に配したのは理由というよりも、未完の状態と思われる。

C 三場面をつないだもの — 二名

8. 2. 4. 4. 5. 6. 3. 1. 7
6. 3. 4. 5. 2. 7. 1. 8
- 雲、風、壁あるいは、お日様・雲・風と並べ立てたことよって、その印象はあることを示している。

D 場面つなぎを二ヶ所つくったもの

1. 6. 2. 5. 3. 4. 7. 8
3. 4. 6. 8. 1. 2. 5. 7
- 両者とも、お日様と雲へのつながりと、一方、前者は話の始まりの印象後者は話の結末の印象と、二つのことを考えている。

E 場面つなぎを一ヶ所だけつくったもの — 十一名

7. 5. 2. 3. 6. 4. 8. 1
6. 1. 5. 2. 8. 7. 3. 4
8. 5. 1. 6. 3. 4. 7. 2
6. 5. 3. 4. 2. 7. 1. 8
1. 6. 3. 4. 8. 7. 5. 2
8. 3. 6. 2. 4. 5. 1. 7
2. 7. 1. 3. 6. 4. 5. 8
3. 6. 8. 7. 4. 5. 2. 1
7. 4. 1. 3. 5. 6. 8. 2
1. 7. 5. 6. 2. 4. 3. 8
5. 2. 1. 4. 3. 7. 8. 6
- お日様から雲へが四名、雲から風へが三名、風から壁へが二名、他は、話の発端・結末をだけ印象していることを示している。

F 順不同 — 十一名

課題の意味を解さない。ママゴトでもするようになり、見た目をきれいにきちんと並べること気をとられ、話の内容や筋には全く入ることができない。

(幼稚園「登校」の部)

A 完成 — 二名

B 五場面をつないだもの — 二名

2・1・3・4・5・6・7・9・8 (同型)

厳密には、1と2とは転倒しないが

子どもたちの日常の経験からは転倒

することもあろうから、2・1は許

してもよい。但し、9・8とはつな

がらない。順序は知れたものの、文

の結末の意識がないと言える。

C 四場面継続と二場面継続と二ヶ所

つづつたもの 二名

3・6・7・8・9・1・4・5・2

1・6・7・8・9・5・4・2・3

未完成放棄なのか、部分的印象な

かいずれかであらう。

D 場面つなぎを三ヶ所つづつたもの

二名

4・2・3・7・5・6・1・8・9

7・8・3・9・1・2・5・6・4

場面と場面とをつなぐ意識はあつて

もそれ以上ではない。

E 三場面をつないだもの — 一名

3・2・4・6・1・7・8・9・5

F 場面つなぎを二ヶ所つづつたもの

五名

3・8・4・9・6・7・5・1・2

6・1・7・2・3・5・4・8・9

2・1・3・4・7・8・5・9・6

6・3・4・2・5・8・9・7・1

G 場面つなぎを一ヶ所だけつづつたもの — 八名

6・1・5・4・7・8・2・3・9

7・3・1・2・6・5・8・4・9

9・6・8・4・2・3・7・5・1

2・6・8・1・9・4・5・7・3

4・2・1・7・9・3・8・5・6

2・4・3・8・6・7・1・9・5

2・4・7・8・3・5・1・6・9

2・5・4・7・8・1・9・3・6

5・2・6・3・8・9・7・4・1

特記すべきことは、殆んどの組合せ

が見られるのに、3・4のつなぎだ

け見えないことである。原文を照合

してみるとうなづけるところである。

時間空間の断続するところである。

H 順不同 — 八名

組合せ頻度数

「ねずみの嫁入り」

「登校」

4 } 2 } 8 } 8 } 6 } 3 } 4 } 1 } 2 } 3 } 4 } 5 } 6 } 7 } 7 } 8 } 8 } 9 } 10 } 9 } 5 } 7 } 6 } 6 } 7 } 8 } 10 } 9 } 1 } 2 } 3 } 4 } 5 } 6 } 7 } 8 } 9 } (以上報告整理担当 東京押上第二幼稚園長 石井邦男)

(小学校一・二・三年「ねずみの嫁入り」の部)

(被験者数) 一年七八名・二年七八名

三年四〇名 計一九六名

(実験校名) 東京・長谷戸小、横浜・

三ツ沢小、神奈川・清新

小

(完成者総数) 一一六名・五九%

(内訳) 一年三九名・五〇%

二年五五名・七〇%

三年二五名・六二%

(話の未。既知と、未完完との関係)

一年 二年

1 / 40 5 / 30

21 / 40 25 / 30

2 / 40 7 / 30

16 / 40 2 / 30

(どんな文型があつたか)

○順序1以外で始まつた例

(一年の場合) 一六名

(二年の場合) 九名但し長谷戸小は

零

(三年の場合) 七名

○一年 (但し以下三ツ沢小調査に限る)

○六場面継続 — 一名

1・2・3・4・5・6・8・7

○五場面継続と二場面連結 — 一名

1・7・8・2・3・4・5・6

○五場面継続 — 四名

1・7・2・3・4・5・6・8 (二名)

1・3・2・4・5・6・7・8

1・8・7・2・3・4・5・6

○四場面継続と二場面連結 — 二名

1・2・3・4・6・5・7・8

1・3・4・5・6・2・7・8

○三場面継続と二場面連結 — 一名

1・2・8・3・7・4・5・6

○他に二場面連結一ヶ所 — 三名

(組合せ頻度数)

1 } 2 } 3 } 4 } 5 } 6 } 7 } 8 } 26 } 29 } 33 } 30 } 30 } 23 } 29 } 8

二年 (但し以下長谷戸小調査に限る)

○五場面継続と二場面連結 — 一名

1・7・8・2・3・4・5・6

○五場面継続 — 二名

1・2・3・4・5・7・6・8

○四場面継続 — 一名

1・8・7・3・4・5・6・2

○三場面継続 — 二名

1・7・2・3・4・6・5・8

1・3・4・5・2・7・6・8

○他に二場面連結一ヶ所 — 一名

(組合せ頻度数)

1 } 2 } 3 } 4 } 5 } 6 } 7 } 8 } 32 } 34 } 36 } 35 } 33 } 30 } 31 } 8

〔小学校一・二年「登校」の部〕

〔被験者数〕一年七三名・二年七八名

計一二一名

〔実験校名〕東京・長谷戸小、横浜・

三ツ沢小、神奈川・清新

小

〔完成者総数〕 五八名・三八%

〔内訳〕 一年二三名・三一・四%

二年四八名・六一%

〔どんな文型があったか〕

一年

○七場面継続——二年二名・一年一名

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 9. 8

○六場面継続と二場面連結——二年三名

1. 2. 3. 4. 5. 6. 9. 7. 8

1. 2. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 3

○六場面継続 二年二名・一年一名

7. 1. 2. 3. 4. 5. 6. 8. 9

1. 2. 3. 4. 5. 6. 8. 7. 9

○五場面継続と二場面連結——二年三名

1. 2. 3. 4. 5. 7. 8. 6. 9

〔組合せ頻度数〕

〔順序〕

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9

〔小学校二・三・四年「きつちよむさん」の部〕

〔被験者数〕二年八一名・三年四二名

四年四一名・計一六四名

〔実験校名〕東京・長谷戸小、神奈川

・上菅田小、町田・町田

五小

〔完成者総数〕 八十八名・五十五%

〔内訳〕 二年 四〇名・五〇%

三年 二一名・五〇%

四年 二七名・六五%

〔どんな文型があったか〕

原文通りの連続以外にA・B二つの

連続型があり、正解と認められるので

先の完成者総数の中に加えた。

A 1. 2. 3. 7. 4. 5. 6

B 1. 2. 3. 7. 5. 6. 4

A型：…二年一九名・三年一五名・四

年一八名で、二年を除いては

原文相当の正解者に比べて圧

倒的多数である。

B型：…二年三名・三年三名・四年十

他に、文章上の誤りは認められないが

笑い話にならないことにおいて、完成

としなかった文型がある。

C 1. 2. 3. 4. 7. 5. 6

C型：…二年四名・三年四名・四年四

名

○五場面継続——

1. 2. 3. 4. 5. 7. 6

1. 7. 2. 3. 4. 5. 6

〔二年一名・三年一名〕

〔三年一名〕

〔1. 3. 7. 4. 5. 6. 2〕

〔四年一名〕

○四場面継続………二年二名

1. 2. 3. 4. 6. 7. 5

1. 2. 3. 7. 6. 5. 4

○四場面継続と二場面連結

1. 2. 7. 3. 4. 5. 6

〔二年二名・三年二名・四年一名〕

〔二年一名〕

〔二年七名・三年三名・四年二名〕

○三場面継続二ヶ所 三年一名

1. 2. 3. 5. 6. 7. 4

〔組合せ頻度数〕

四年 38 32 15 30 38 9

三年 39 29 16 41 37 4

二年 79 53 28 44 62 28

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7

〔正解文型機能の分類〕

各文意の機能を次のように分類する

ことができる。

A 条件(前提)設定

① のぶながはきがみじかくて、か

んしゃくもちのとのさまでした。

B 時間・空間限定

④ あるゆきのあさです。

C 述懐

⑦ このようにとうきちろうは、な

にをするにも、いっしょうけんめ

いです。のぶながはとうきちろう

がきにいました。

⑧ のぶながは、かんしんしました。

ああ、いいけらいをもったと、こ

ころのなかでよろこびました。

にならない順序であるが、文意が通するので認めた。

〔小学校四・五・六年「信長」の部〕

〔被験者数〕四年四一名(うち無効五

名)・五年三六名・六年

八一名・計一五八名

〔実験校名〕東京・町田五小、神奈川

・清新小、神奈川・上菅

田小

〔完成者総数〕 五〇名 三〇%

〔内訳〕 四年二二名 五〇%

五年 四名 一一%

六年二四名 三〇%

D 行動

② 「うまをひけい」

「はあい」

とうきちろうは、すぐとうまをひきだしました。のぶながは、うまにのるがはやいかむちをうってはしらせました。

「とうきちろう、つづけ」

「はあい」

うまなんかにまけるものかとうきちろうは、はをくいしばって、うしろからはしりました。

③ 「きょうからわたしのぞうりとりになれ」とうまのせわをやめさせて、ぞうりとりといううえのや

⑤ のぶながは、げんかんにでました。ぞうりがそろっていて、はくとあたたくなっています。のぶな

⑥ 「ぶれいものめ、ぞうりに、こしをかけておったな」

「いいえ、ちがいます」

「さむいゆきのあさですから、あたたかくしてさしあげようとおもいました。ふとこにいれて、あためておりました」

E 転換

③ 「きょうからわたしのぞうりとりになれ」とうまのせわをやめさせてぞうりとりといううえのやく

めにつかれました。

(注) 行動の中にも入れたが、意識的な扱われ方による。

従って、「信長」の文完成は以上の各A・D文意の組合せであり配列であると考えてよい。

まずDの連続展開の中に、他のA・B・Cが、適当に加えられるとしてよい。説明的には、A・B・Cそれぞれが、Dを導いていると逆に考えてもよい。単独にそれぞれの添加結合を考えてみると、冒頭句として、あるいは改行句として

- A・2
A・2 1 3
A・5 1 6
B・2 1 3
B・3 1 5 1 6
B・5
B・5 1 6

以上の他に、冒頭句として、Dの②から始めることが可能である。

Cは、⑦⑧、あるいは⑧⑦と連続して文末に据えるか、さもなければ、⑧別々に、全体の文章の中の区切り区切り挿入できる。

Eは全体の文章を二分する転換の役割をはたしている。

(正解文型予想例とその結果)

4学年
5学年
6学年

Grid of numbers with brackets and vertical bars, representing a data table for the experiment.

(小学校四・五年「休さん」の部)
(被験者数) 四年三九名・五年二八名
計 六七名
(実験校名) 東京・町田五小、神奈川
・清新小

(完業者総数)
(内訳) 四年 二三名 五八%
三年 一二名 四二%

(完成文型)
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
(5年)

Table of numbers from 1 to 15 representing completion counts for different text types.

(組合せ文型と頻度数)

(但し完成者分のみ)

1	21	}	27	}	11	}	3	}	18	}	17	}	21						
2	3																		
3	4																		
4	5																		
5	6																		
22	6	}	7	}	8	}	9	}	10	}	11	}	12	}	13	}	14	}	15
7	8																		
8	9																		
9	10																		
10	11																		
11	12																		
12	13																		
13	14																		
14	15																		
15	16																		
16	17																		
17	18																		
18	19																		
19	20																		
20	21																		
21	22																		
22	23																		
23	24																		
24	25																		

その他組合せ文型と頻度数

6 8)	7	}	4	}	3	}	2
7	8						
8 7)	2	}	8	}	7	}	1
7	8						
5 8)	2	}	9	}	8	}	1
8	7						
10 8)	1	}	4	}	8	}	2
11	11						
13 11)	7	}	2	}	11	}	1
14	14						
1 11)	1	}	2	}	3	}	1
2	2						
4 6)	4	}	1	}	6	}	7
5	5						
11 13)	1	}	9	}	10	}	1
12	12						
5 2)	1	}	8	}	13	}	1
7	7						
6 1)	1	}	6	}	11	}	1
2	2						

10 12)	1	}	8	}	12	}	1
8	8						
6 7)	4	}	1	}	11	}	1
7	7						

以上の如くに、⑧が動きやすいことは、7910の組合せを作りやすいことであり、23例を得、⑪が動きやすいことは、101213の組合せを作りやすく11例を得ている。

(組合せ文型頻度によるその順位)

①	3	4	5	②	2	3	4	③	7	9	10
④	4	5	6	⑤	12	13	14	13	14	15	
⑥	9	10	11	10	11	12		⑦	11	12	13
⑧	10	12	13	5	6	7		⑨	6	8	7
13	11	14	⑩	8	9	10					

①注目すべき箇所
678の継続が僅かに二名であり、789の継続もまた三名である。それに比べて、687とするものは七名、従って、7910とするもの二三名というあたりに、子どもたちの思考の段階がある。

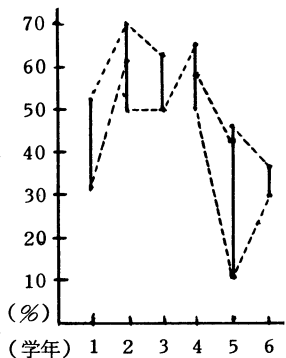
(小学校五・六年「ペーパー」の部)
〔被験者数〕五年三九名・六年三三名 計 七二名
〔実験校名〕神奈川・清新小
〔完成者総数〕三〇名 四一%
〔内訳〕五年 一八名 四六%
六年 一二名 三六%
(完成文型)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	五年	六年
1	2	3	4	5	6	7	8	9	7	5
1	2	3	4	5	6	7	8	9	5	3
1	2	3	4	5	6	7	8	9	6	4

(組合せ文型頻度数)
(誤答者分も含む)

五年	12
六年	5
	21
	6
	6
	8

総合結果とまとめ



一年から二年へかけて能力は向上し二・三・四と活動期にあるのであろうか。それに引きかえ、五・六は低下し五年の能力差は著しく開いている。もとより実験学校差が出ていることも否めない。(都会地方が適当に混合されるよう注意したのだけれども、計画どおりの資料収集ができず、偏った。)平均値では二年が高いが、四年は、どの問題においても、それぞれの全体の百分率を超えた結果を出していることは注目されねばならないことである。

「鼠の嫁入り」と「登校」とは、単純な文の流れに沿えるかどうかである。言い換えれば文を始まりと、終りの中に順序立てればよいことになる。大体等時間的経過を持つものを選んだつも

りであったが、それでも、つなぎの悪い箇所が一・二年通じて明瞭に一致していることは、今後この学年の指導に注意を要するところと言わねばならぬ。「きつちよむさん」は笑いを誘う文章に構成されねばならぬ条件がある。

もとより、実験に当たって、それを指示しないし、組み合せているうちに、笑い話だと知れて来るのであろうが、このことに関して、二つの問題点を残してくれたように思う。一つは、原文通りの構成以外の別の文型に集中したところである。知恵の発達には型のようなものがあるのであろうか。原文通りの構成の知恵は少くとも、彼等たちが現在当面しているところとは違うということである。今一つの問題は、文章つなぎにおいては、誤りとは言えない。

しかし、笑い話とはなっていないかたちにも上げたいのは何を意味しているのだろうかということである。偶然にそうなったまでのことも言えるだろう。このことは笑い話を構成した者においても有り得る。では笑い話だと感づくのは何がもたらすものなのかという課題がもたらされる。懸案としたい。

なお、この「きつちよむさん」においてもつなぎの悪い箇所は、学年の區別なく一定している。「信長」は百分率の上では最も成績

の悪かったものである。その原因に、この文章が中では構成的であったことによるのであろう。しかし、考え方によれば、この種の構成力テストにおいては構成的な文章ほど易しいとも言える。だとするならば、子どもたちの全体的論理構成への着眼と態度との養成が遅れているのかもしれない。もし、その方面への開眼が充分であったならば、解答文型は、もっと散らばってよい筈であった。特に集中する文型があったことは、まだ構成というよりも、平面的羅列的文章つなぎの方に集中して、こうなればあなるし、ではこうしてみればなどと拡散的な思考をする子どもが少なかったらうか。

「一休さん」においては、既に「注目すべき箇所」として提示したが、作中人物が一度あらわれると、すぐには他の人物に移行できない。その人物をイメージが追っかけてしまう。特にこの文章は、組合せが無数に可能であるのに、そのために苦しんでしまっている。四九%の出来ではあるが、組合せが自由であることから言えば決してよい出来ではない。文章は構成されるという本来性を子どもたちは失っているかのようである。(学校国語教育が、文章を規範として子どもたちに印象つけていなかったら幸いである。思いを

文章に嵌めるのではない。思いが文章を動かすことを子どもに告げねばならぬ。)

「バーブルース」は、明瞭に三段構成である。解答から見ても、三段にそれぞれつないだ頻度数も、ほぼ平均しており、五年・六年ともに変動はない。従って誤答者は、一人の234657891の解答を除けば、もう全く、三段構成が考えつかれない回答で、支離滅裂となっている。五年のグラフに出たような能力差が、もうこの段階で固定し始めるのだろうか。わかる子、わからない子が大きく水をあけたかたちが出た。

資料整理責任 丹野しげ子
文責 上原 輝男

入会の御案内と投稿規定

本誌は、幼稚園・小学校の現場人が現場でつくる雑誌ですから、幼・小の先生方ならどなたでも正会員となれます。

現場での御報告・御研究をお寄せ下さい。四〇〇字詰二十五枚以内。ただし、子ども中心のものであるのが本誌の特徴です。採否は編集部にお任せ願います。

ほかに研究会その他を計画致します。

本誌購読者の方々(一年分まとめ)を会友になって頂きますが、原稿掲載は正会員に限ります。

入会御希望の方は

- ① 芳 名
- ② 御 住 所
- ③ 勤 務 先
- ④ 担 当 学 年
- ⑤ 本年度使用の国語教科書使用出版社名

を必ずお書き下さり、本年度会費(千円)を添えてお申し込み下さい。
(事務局)